



2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月31日

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン

上場取引所 東

コード番号 9832 URL <https://www.autobacs.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 小林 喜夫巳

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 高野 浩之 TEL 03-6219-8787

四半期報告書提出予定日 2019年2月7日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 有

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	165,902	0.5	7,142	△10.0	7,931	△6.1	4,667	△11.9
2018年3月期第3四半期	165,157	2.5	7,938	19.3	8,450	18.8	5,296	13.9

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 4,221百万円 (△34.4%) 2018年3月期第3四半期 6,431百万円 (37.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	56.56	—
2018年3月期第3四半期	64.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	202,101	126,758	62.4	1,528.91
2018年3月期	187,354	127,352	67.7	1,537.59

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 126,148百万円 2018年3月期 126,866百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2019年3月期	—	30.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	215,000	1.3	9,000	15.5	10,000	21.6	6,800	25.8	82.42

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	84,050,105株	2018年3月期	84,050,105株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	1,541,395株	2018年3月期	1,540,020株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	82,509,631株	2018年3月期3Q	82,511,334株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
経営成績に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、2019年3月期より、経営資源の配分および業績評価に関して、5つの事業に変更いたしました。報告セグメントとしては、各事業の性質と規模を考慮し、「国内オートバックス事業」「海外事業」「ディーラー・BtoB・ネット事業」の3つに区分いたしました。

また、前連結会計年度において営業外収益および販売費及び一般管理費で表示しておりましたクレジット事業等の収益および費用は、営業活動の拡大を行うこととなったため、売上高および売上原価に含めて表示することとし、従来、「その他」として表示していた事業区分に含め、新たに「その他の事業」として報告セグメントに追加し、4区分といたしました。

なお、以下の文中における数値および前年同期比は、これらの変更後のものに基づき、記載しております。

経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内の自動車関連業界の動向といたしましては、新車販売台数は回復傾向で、中古車登録台数は前年度並みであり、自動車関連商品の需要も前年度並みに推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは2020年3月期を最終年度とする「2017中期経営計画」において、「国内オートバックス事業の再生」と「将来に向けた成長ドライバーの育成」を軸に、収益の拡大と資産効率の向上のための施策に注力しております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比0.5%増加の1,659億2百万円、売上総利益は前年同期比1.7%減少の518億37百万円、販売費及び一般管理費は前年同期比0.2%減少の446億95百万円、営業利益は前年同期比10.0%減少の71億42百万円となりました。経常利益は前年同期比6.1%減少の79億31百万円となりました。また特別利益として、災害に関わる受取保険金1億69百万円を計上し、特別損失として、災害による損失9億62百万円、子会社統合による特別退職金2億73百万円を計上いたしました。この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比11.9%減少の46億67百万円となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりであります。

〔国内オートバックス事業〕

当第3四半期連結累計期間における日本国内のオートバックスチェーン（フランチャイズチェーン加盟法人店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店、全店ともに1.1%の増加となりました。

国内オートバックスチェーンでは、タイヤにおいては、売場展開を強化したプライベートブランドを中心とする低価格帯商品の好調に加え、第3四半期における全国的な冷え込みに伴うスタッドレスタイヤの需要増加に対応し、売上が伸びました。また、一部の道路におけるチェーン装着義務化に伴い、タイヤチェーンの売上也伸びました。カーエレクトロニクスに関しては、ドライブレコーダーに対する認知度の高まりと、お客様の運転時の安全に対する意識の高まりに伴い、各店舗において品揃えと販売体制を強化したことにより、ドライブレコーダーの売上が好調に推移いたしました。さらに、プライベートブランド「AQ.（オートバックスオリティ.）」やクルマに関わるライフスタイルを提案するブランド「JKM（ジェイケーエム）」「GORDON MILLER（ゴードンミラー）」のラインアップを拡大し、店舗における商品の魅力度向上に努めました。

2018年3月には日本初のクルマを通じたライフスタイルショップ「JACK & MARIE（ジャックアンドマリー）」のリアル店舗「JACK & MARIE 横浜ベイクォーター」を初出店し、2018年9月には「JACK & MARIE ららぽーと名古屋みなとアクルス」、2018年11月には「JACK & MARIE 横浜ランドマークプラザ」「JACK & MARIE MARK IS 福岡もち」をオープンし、リアル店舗は計4店舗となりました。各イベントへの出展も継続することで、ブランドの認知度向上に努めました。

また、2018年11月には当社グループの旗艦店である「スーパーオートバックス東京ベイ東雲」をリニューアルし、クルマと共に過ごす居心地の良い空間や、ライフスタイル別の提案により、新たな発見・体験をお客様に提供する「A PIT AUTOBACS SHINONOME」として新たにオープンいたしました。

さらに、店舗における接客状況の分析に基づき、売場における人員配置や従業員の時間管理などの店舗オペレーション改善を進めるとともに、売場やピットなど、ハード面のリノベーションを進めています。

車検・整備は、車検を受けていただいたお客様向けのサービス「安心3つ星補償」で他社との差別化を図り、次回車検予約獲得の推進、15分受け入れ点検などのピットオペレーションの改革を進めました。さらに「プロフェッショナルでフレンドリーな存在」を象徴する存在として、実際の店舗で働く整備士の中から「AUTOBACS GUYS（オートバックスガイズ）2018」を選出し、テレビCMや店頭における宣伝活動を展開いたしました。しかしながら、上半期における国内の車検対象車両台数が少なかったことが影響し、車検実施台数は前年同期比1.1%減少の約45万2,000台となりました。

車買取・販売は、中古車の買取強化とカーズ加盟店のコスト削減のため、2018年3月末にカーズフランチャイズチェーン契約内容の見直しを行いました。また、今期より車買取事業を当セグメントへ移管いたしました。また、収益性の低い4店舗を閉店し、営業活動を集中強化いたしました。これらの結果、国内オートバックス事業における総販売台数は前年同期比3.4%増加の約21,800台となりました。

出退店は新店が2店舗、退店が8店舗あり、2018年3月末の603店舗から597店舗となりました。なお、12月末のカーズ加盟店舗は前年度末から1店舗増加の425店舗となりました。

これらの結果に加え、前期に低下させていた当社からの店舗の仕入原価率を通常に戻したものの、2018年3月期においてオートバックスチェーンの店舗を運営する当社連結対象子会社をフランチャイズチェーン加盟法人に事業譲渡したことなどに伴う売上と粗利の低下に加え、店舗リノベーションや販売促進などに関わる経費の増加により、当第3四半期連結累計期間の国内オートバックス事業の売上高は1,403億28百万円（前年同期比1.1%減少）となり、セグメント利益は123億17百万円（前年同期比6.7%減少）となりました。

〔海外事業〕

海外事業における売上高は84億2百万円（前年同期比21.7%増加）、セグメント損失は5億99百万円（前年同期は4億64百万円のセグメント損失）となりました。小売・サービス事業として、タイにおいては、前期に引き続きPTGグループのガソリンスタンドモールへの小型店の積極的な出店により、売上が増加いたしました。フランスにおいては、フランチャイズチェーン加盟法人店舗の現地子会社による直営化により連結対象店舗が2店舗増加したことにより売上は増加したものの、天候不順やデモなどの政治不安の影響で営業損失が拡大いたしました。シンガポールにおいては、カーシェアリング車両に対するメンテナンスサービスは順調だったものの、店舗におけるサービス売上が低調だったことなどにより収益が減少いたしました。

卸売事業においては、各地域において商品開発を進める一方、国を越えて販路を拡大しつつあります。中国において、事業拡大に向けた経費が増加したものの、中国国内外においてカー用品卸売が伸長し、営業利益が増加いたしました。さらにロシアへの海外向けプライベートブランドのオイル販売に加え、アセアン地域で現地ハイパーマーケットなどへのカー用品の卸売が増加いたしました。また、2018年10月にオーストラリアにおいてAudioXtra Pty Ltd.を株式取得により新たに連結対象子会社とし、さらなる海外卸売事業における収益拡大に努めました。

海外における出退店は、新規出店が7店舗、退店が4店舗あり合計44店舗になりました。

〔ディーラー・BtoB・ネット事業〕

ディーラー・BtoB・ネット事業における売上高は222億75百万円（前年同期比2.9%増加）、セグメント損失は7億84百万円（前年同期は4億84百万円のセグメント損失）となりました。輸入車ディーラー事業は各拠点の営業体制を強化し、営業活動に注力いたしました。さらに、2017年11月に東京都練馬区に2拠点、2018年8月に東京都杉並区に1拠点増えたことにより、売上が増加いたしました。

BtoB事業は、オイル原価と物流コストが高騰するなど厳しい環境が続くものの、オイル卸売において値上げをしたことや、第2四半期に設立した株式会社CAPスタイルによるプライベートブランド商品のラインアップを強化するなど経営統合の効果があらわれ、収益体質が改善しつつあります。

ネット事業は、品揃え、チャネル、プロモーションなどの再構築に取り組んでおり、外部モールを3チャネルから1チャネルに集中させ、効率化を進めるとともに、自社サイトのリニューアルに向けた準備を進めています。また、BtoB事業向けのインターネット販売のプラットフォームを構築し、新たなBtoBビジネスへのスタートを切りました。

〔その他の事業〕

その他の事業における売上高は16億95百万円（前年同期比6.0%減少）、セグメント利益は2億96百万円（前年同期比14.0%減少）となりました。これは主に保険に関わる手数料収入の減少によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	39,069	30,441
受取手形及び売掛金	23,600	35,034
商品	16,419	21,981
未収入金	21,972	30,036
未収還付法人税等	32	185
その他	10,693	10,022
貸倒引当金	△92	△88
流動資産合計	111,695	127,612
固定資産		
有形固定資産		
土地	22,627	21,572
その他(純額)	18,599	19,697
有形固定資産合計	41,226	41,270
無形固定資産		
のれん	1,170	1,363
その他	4,879	4,783
無形固定資産合計	6,050	6,146
投資その他の資産		
差入保証金	14,181	13,866
その他	14,254	13,241
貸倒引当金	△54	△36
投資その他の資産合計	28,381	27,071
固定資産合計	75,658	74,489
資産合計	187,354	202,101
負債の部		
流動負債		
買掛金	20,710	34,944
短期借入金	3,252	3,139
未払金	12,626	17,808
未払法人税等	3,014	550
ポイント引当金	237	86
その他	6,582	6,427
流動負債合計	46,425	62,957
固定負債		
長期借入金	2,190	1,320
引当金	76	39
退職給付に係る負債	1,051	957
資産除去債務	2,110	2,139
その他	8,147	7,929
固定負債合計	13,575	12,385
負債合計	60,001	75,343

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,298	34,298
利益剰余金	59,639	59,354
自己株式	△2,773	△2,776
株主資本合計	125,163	124,875
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,924	1,534
為替換算調整勘定	470	377
退職給付に係る調整累計額	△692	△639
その他の包括利益累計額合計	1,703	1,272
非支配株主持分	486	610
純資産合計	127,352	126,758
負債純資産合計	187,354	202,101

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	165,157	165,902
売上原価	112,444	114,065
売上総利益	52,713	51,837
販売費及び一般管理費	44,774	44,695
営業利益	7,938	7,142
営業外収益		
受取利息	58	50
受取配当金	86	78
持分法による投資利益	336	505
情報機器賃貸料	535	548
その他	794	890
営業外収益合計	1,811	2,073
営業外費用		
支払利息	28	21
情報機器賃貸費用	638	604
固定資産除却損	236	84
その他	396	573
営業外費用合計	1,300	1,284
経常利益	8,450	7,931
特別利益		
投資有価証券売却益	291	—
受取保険金	—	169
特別利益合計	291	169
特別損失		
減損損失	220	—
特別退職金	—	273
災害による損失	—	962
関係会社整理損	561	—
特別損失合計	782	1,235
税金等調整前四半期純利益	7,959	6,865
法人税、住民税及び事業税	2,791	1,983
法人税等調整額	△165	225
法人税等合計	2,625	2,208
四半期純利益	5,333	4,656
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,296	4,667
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	36	△10
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	796	△385
為替換算調整勘定	285	△91
退職給付に係る調整額	—	53
持分法適用会社に対する持分相当額	16	△10
その他の包括利益合計	1,098	△434
四半期包括利益	6,431	4,221
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,391	4,236
非支配株主に係る四半期包括利益	40	△14

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(表示方法の変更)

前第3四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」および「販売費及び一般管理費」に含めておりましたクレジットカード事業等の収益および費用は、近年多様な金融決済手段の登場や、国内オートバックス事業において、独自のポイント制度から共通のポイント制度へ移行したことなどを機に営業活動の拡大を行うこととなったため、クレジットカード事業等の重要性が増し、報告セグメントに含めることとなったことから、第1四半期連結会計期間より「売上高」および「売上原価」に含めて表示することに変更いたしました。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益及び包括利益計算書において「営業外収益」の「その他」および「販売費及び一般管理費」に表示しておりました548百万円および76百万円は、「売上高」548百万円および「売上原価」76百万円として組み替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	国内オート ボックス 事業	海外事業	ディーラー ・BtoB・ ネット事業	その他の 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	140,630	6,644	16,595	1,286	165,157	-	165,157
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,302	261	5,056	517	7,137	△7,137	-
計	141,933	6,906	21,651	1,803	172,295	△7,137	165,157
セグメント利益又は 損失(△)	13,207	△464	△484	345	12,604	△4,665	7,938

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△4,665百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「国内オートボックス事業」において、退店を意思決定した2店舗に係る店舗資産の帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該事業による当第3四半期連結累計期間の減損損失の計上額は54百万円であります。

「ディーラー・BtoB・ネット事業」において、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである資産グループについて、帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。当該事業による当第3四半期連結累計期間の減損損失の計上額は166百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	国内オート ボックス 事業	海外事業	ディーラー ・BtoB・ ネット事業	その他の 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	139,358	8,178	17,090	1,275	165,902	-	165,902
セグメント間の内部 売上高又は振替高	969	223	5,185	419	6,798	△6,798	-
計	140,328	8,402	22,275	1,695	172,701	△6,798	165,902
セグメント利益又は 損失(△)	12,317	△599	△784	296	11,230	△4,088	7,142

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△4,088百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、「その他」と表示しておりました事業区分は、クレジットカード事業等の営業活動の拡大を目的とした会社組織の変更に伴い、第1四半期連結会計期間より、「その他の事業」として報告セグメントに含めることといたしました。

また管理区分の見直しを行ったため、第1四半期連結会計期間より、「国内オートボックス事業」に含まれていたネット関連販売事業を「車・ディーラー・BtoB事業」に、「車・ディーラー・BtoB事業」に含まれていた車買取専門店事業を「国内オートボックス事業」に、それぞれ事業の所属セグメントを変更いたしました。この所属セグメントの変更に伴い、報告セグメントの名称を「車・ディーラー・BtoB事業」から「ディーラー・BtoB・ネット事業」に変更いたしました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「海外事業」セグメントにおいて、2018年10月にオーストラリアにおいて車載および船舶用無線機器卸売、カーエレクトロニクス機器等の製造卸売などを行うAudioXtra Pty Ltd.の株式を取得し、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において279百万円であります。